

FP まつもとと通信

知って得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

日ごとに日が長くなり春の訪れが待ち遠しい季節になってきましたね。一方、花粉症の方にとっては憂鬱な季節かもしれません。

日本気象協会の「2025年春の花粉飛散予測（第3報）」（2025年1月発表）は以下の予想を発表しています。

- スギ花粉のピークは早いところで2月下旬から、ヒノキ花粉は3月中旬から4月中旬
- 飛散量は、広い範囲で例年より多く、四国・近畿は例年の2倍以上の所も

前シーズンは症状が軽かった人も今シーズンは花粉症対策をしっかりとっておきたいですね。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

「教育資金」は人生の3大支出の一つとされています。幼稚園から大学まで教育資金としてどのくらい準備しておけばよいのでしょうか？

2月17日(金)から確定申告です（3月17日まで）

還付申告は、確定申告の期間外でも可能です。申告期間中の税務署の混雑を避けるため期間外に申告、またはスマホでの申告を検討してはいかがでしょうか？

すでに年末調整をした方でも確定申告をしたほうが良いのは以下のような場合です。

- 年末調整で控除書類の提出ができなかった
- 年末調整以降に扶養家族ができた
- ふるさと納税をして「ワンストップ特例制度」を利用していない
- 寄付をした
- 住宅ローンを組んだ
- 給与所得者の特定支出控除がある
 - 転勤等で転居費がかかった場合
 - 職務に必要な資格取得、書籍の購入
 - 単身の人への帰宅費用、など
- 医療費の支払いが10万円を超えている
- 災害や盗難で被害にあった
- 年末調整をしていない（中途退職して年内に再就職していない場合など）

このような場合には、還付が受けられることがあります。対象になるか気になる場合には、税務署に問合せをしてみてください（思いのほか丁寧に教えてくれます）。



FP 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの「悲惨な老後の実態」を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、「確定拠出年金」や「つみたてNISA」を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

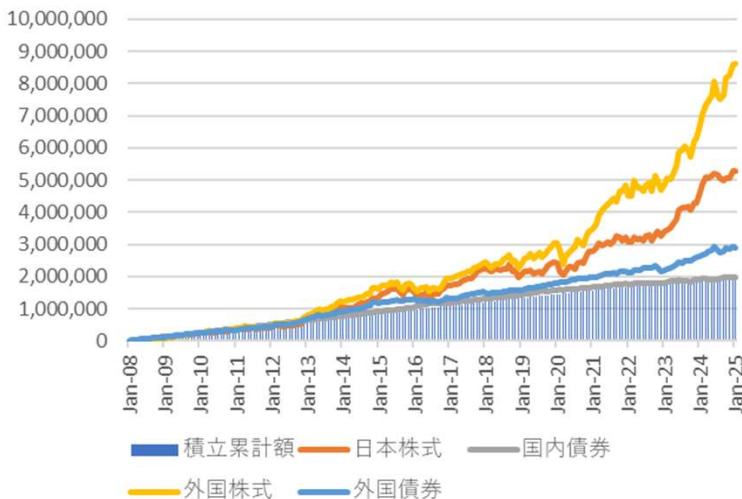
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を、図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、長期の積立投資で成果を得るためには以下が大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Nov-24	Dec-24	Jan-25
積立累計額	2,030,000	2,040,000	2,050,000
日本株式	5,059,927	5,271,650	5,287,413
国内債券	1,960,620	1,967,905	1,962,810
外国株式	8,252,275	8,588,042	8,612,556
外国債券	2,843,477	2,940,968	2,888,156

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた外国株式への積立投資の合計額①205万円（青棒）は2025年1月に②861万円（オレンジ線）、約4.2倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は以下になります。

最大	2,977,271	2014年7月	～	2024年6月
最小	1,747,373	2010年4月	～	2020年3月
平均	2,417,485	データ数：86		

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

2025年は堅調に幕開け

	日経平均		NYダウ		ドル円
Nov-24	38,208.03	-2.23%	44,910.65	7.54%	149.70
Dec-24	39,894.54	4.41%	42,544.22	-5.27%	156.77
Jan-25	39,572.49	-0.81%	44,544.66	4.70%	155.13

1月のNYダウ平均株価は4.7%の上昇と堅調でした。インフレの安定化傾向が確認されたことで、利下げ継続への期待が高まったことが要因として挙げられます。

月後半には中国のAIベンチャーが低コストの高性能AIを開発したことから高性能半導体企業の株式を中心に一時的に大きく下落しましたが、その後落ち着きを取り戻しました。半導体を中心としたハイテク企業は割高な水準まで買われているという見方も多いので悪材料に過剰反応する可能性もあります。

トランプ大統領は2月1日に、カナダとメキシコに25%、中国に追加で10%の関税を課す大統領令に署名しました。経済やインフレに対してネガティブな影響を及ぼす場合、株式市場は大幅な調整を余儀なくされるかもしれません。ただし長期投資ではそのような状況になっても継続することが大切だと考えています。

長期投資家は『Deep Seek ショック』とどう向き合うべきか

先月20日に中国の新興AI企業「Deep Seek」が先端半導体を使わない安価な高性能AIを開発したとのニュースを受け、その1週間後の27日には現在のAI関連企業の主役ともいえる先端半導体企業のNVIDIAの株価は1日で17%も下落しました。

NVIDIAの時価総額は約540兆円（1/24終値ベース）で世界首位でしたが27日には約450兆円と90兆円も時価総額が下がりました。

日本企業で時価総額が最大の企業はトヨタですが、その金額は約45兆円。トヨタ2社分の時価総額がわずか1日で失われたこととなります。

下落の原因はNVIDIAが得意とする先端半導体を利用せずに高性能AIを開発できたことから先端半導体に対する需要が大きく減少するとの見方によるものです。

このように、従来の流れを変える出来事に長期投資家はどのように向き合うべきでしょうか？

短期の値動きで利益を狙う投資家は、AI開発におけるアメリカの優位性は失われたのか、AI開発に高性能半導体は本当に不要になるのか、を検討しさらにそれにより資金はどこに向かうのかを予想する必要があります。投資のタイミングと物色先の両方を的中させるのは非常に困難と言えます。

一方長期投資家は短期的な市場動向を予想する必要はありません。新しい技術によって、現在花形とされる企業や産業が淘汰されたとしても、それは『新陳代謝の一部』と捉えることができます。市場は常に進化し、古い企業が淘汰される一方で、新しい技術を持つ企業が台頭します。過去の歴史を振り返っても、テクノロジーの進歩が市場の長期的な成長を支えてきたことは疑いない事実です。

今この瞬間も世界中の技術者がより便利に、あるいはより環境負荷が小さくなるように、などの研究を続けているはずで、長期投資家はこのような研究の成果がビジネスとして開花し株価に反映するのを待つ、というスタンスでいることが大切です。



ちょっと気になるお金のコラム

街中で受験生を見かけるが増える季節になりました。今年は例年にも増してインフルエンザが猛威を振っています。受験生がいるご家庭では、健康管理に気をつけ、これまでの努力の成果を十分に発揮できることを願っています。

受験応援グッズとしてチョコレート菓子はよく知られていますが、最近は意外なものが流行しているようです。

マンホールは、“落ちない”・“滑らない”ことから、縁起が良いことから国土交通省のHPでも紹介されています。南三陸のタコのキャラクターグッズも人気です。タコは英語で“オクトパス (octopus)”、“置く”とパス(試験に合格する)”という語呂合わせから注目されています。

合格後に気になるのは、入学金などの教育費でしょう。教育費は、「住宅資金」「老後資金」と並ぶ人生の3大支出とされています。必要な費用を把握し、しっかりと準備を進めましょう。

下表は、幼稚園(3歳)から高校3年までの15年間の学習費の総額です(令和5年度 子供の学習費調査 文部科学省)。

		公立(円)		私立(円)	
		総額	内学校外	総額	内学校外
幼稚園	3歳	149,591	55,629	335,350	97,158
	4歳	166,969	97,842	323,783	167,000
	5歳	215,617	123,700	378,954	199,352
小学校	第1学年	398,268	199,002	2,202,541	666,231
	第2学年	268,137	174,222	1,628,139	631,148
	第3学年	295,461	203,152	1,772,477	638,981
	第4学年	305,403	209,230	1,682,848	698,266
	第5学年	354,437	243,020	1,782,459	812,325
	第6学年	395,672	264,573	1,905,930	880,573
中学校	第1学年	545,420	278,510	1,869,839	371,556
	第2学年	473,578	341,630	1,281,980	362,056
	第3学年	607,215	445,995	1,519,770	539,226
高等学校 (全日制)	第1学年	700,292	195,396	1,274,274	231,045
	第2学年	581,984	227,068	978,509	285,096
	第3学年	505,052	320,323	824,452	276,564

幼稚園から高校まで全て公立だと約596万円、一方全て私立だと1976万円になります。

学校外の支出は塾や習い事です。小学校まではこの割合がかなり多いことがわかります。

下表は大学進学のコストです(文部科学省「令和5年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金等平均額」)。

	国立	私立文系	私立理系
入学料	282,000	223,867	234,756
授業料	535,800	827,135	1,162,738
施設設備費		143,838	132,956
実験実習料		6,953	36,835
その他		73,955	41,290
初年度納入額	817,800	1,275,749	1,608,576
2年目以降	535,800	1,051,881	1,373,819
4年間の総額	2,425,200	4,431,392	5,730,033

大学進学の場合は、これに加えて受験料が必要になります。また、自宅外で受験する場合は交通費、自宅外の大学に進学する場合は下宿代も必要になります。

全国大学生生活協同組合連合会の第59回学生生活実態調査によると下宿生の収入合計は129,240円、そのうち仕送り額は70,120円でした。最も大きな出費は住居費で、平均53,000円でした。また、食費も気になる項目です。

下宿生の月の食費は25,880円と1日当たり約860円です。この調査は2023年の負担額(2024年発表)を基にしています。そのため、昨今の物価上昇を踏まえると、さらに厳しい状況になっていることが考えられます。

(2024年の物価上昇率はまだ公表されていませんが2024年11月の物価上昇率は前年同月比2.9%の上昇)。

学費の必要な時期や金額は明確になっています。それに向けて、しっかりと準備を進めましょう。